



第144号

令和6年2月1日

# 富山県婦人会だより

発行/富山県婦人会 〒930-0805 富山県富山市湊入船町6-7 TEL076-441-4747 FAX076-432-1803

## 第14回 絆きずな ～活動と交流のつどい～

と き：令和5年10月28日(土)

12時50分～15時50分

と ころ：とやま自遊館ホール



オープニング



講演



うたいましょう



来賓祝辞

今までに無い酷暑の夏が過ぎ去り、はや晩秋を漂わせる季節となりました。

本日ここに「第14回絆〜活動と交流のつどい〜」を開催いたしましたところ、富山県知事新田八朗様、富山県議会副議長奥野詠子様、富山県教育委員会教育長萩布佳子様始め多数のご来賓のご臨席の下に、盛大に開催できますことは、誠に有難く、心よりお礼申し上げます。

さて、令和5年度がスタートして早7か月が過ぎましたが、予定した本会事業は、皆様のご協力のもと全て開催させていただきました。中でも、7月、入善町での「家庭教育セミナー 映画会」、8月、滑川市での「地域間交流事業」の実施にあたり、両市町会員の皆様には大変お世話になりました。また、県内各地からご参加いただきました会員の皆様にも厚くお礼申し上げます。

また、10月、高岡テクノドームで開催された「とやま環境フェア2023」では、「親子が参加できるブース」を出展、多くの皆様にご来場いただき、和やかな2日間ございました。

このほか、参加事業はたくさんございましたが、多くの会員のご協力をいただき終えることができました。ここに、皆様に感謝申し上げます。

さて、婦人会は全国都道府県自治体であり、婦人たちがどこでも心を寄せ合い、あらゆる面で連帯して実践し地域振興に寄与・貢献して参りました。

しかし今、少子高齢化・人口の減少が、現実の問題となり、連帯共助の意識の希薄化が進み、その影響が私たち婦人会の組織にも大きな影響を与えています。

しかし、地域の課題解決を目指す活動を積み重ねてきた婦人会は、地域住民との良い繋がりを持つことがウェルビーイングの向上のために大切ではないかと思っております。

ご出席の皆様には今後とも地域に根ざした活動を通してお力添えを賜りますようお願い申し上げます。



第14回  
絆きずな〜活動と交流のつどい〜  
富山県婦人会 会長 岩田 繁子

# 第14回「絆」活動と交流のつどい

令和5年10月28日(土) とやま自遊館ホール



講演 演題

## 「越中八尾における通年観光

### ―地域の光を活かすには―

講師

株式会社OZ Links代表 原井紗友里氏

人生の先輩の方々に前にお話するのはおこがましいのですが1時間余り八尾の通年観光について話したいと思えます。よろしくお願いたします。

私は富山市藤ノ木出身で、東京の大学でその8年間、中国で4年間過ごし、その4年間で、ふるさと富山のよき、すばらしさに気付くことが出来ました。八尾にとつて私はヨソモノですがおわら風の盆という宝物を守りたい、そのためには富山の交流人口、関係人口が増えればよいとの思いから7年間、今の活動を続けています。2016年に設立したOZ Linksは、「観光」「アパレル」「コンサルティング」の3つの事業をしています。

易経の「国の光を観る もつて王に賓たるに利し」の光を観るから観光という言葉が生まれたと言われています。おわら風の盆というだけでなく、文化、地形、ありのままの豊かな暮らしを、訪れた人と住人の方をつなぐ観光拠点として越中八尾ベイスOYATSUを作り直しました。地域の中に1分でも1秒でも長く滞在してもらい、宿泊し、おみやげを買ってもらい、地域を回遊し、暮らしを観せることで通年観光が実現します。2023年には19万人の人がおわら風の盆を訪れました。風の盆に携わる人口50000人の町にとつてと

てまずいことでは。また2019年には3188万人のインバウンド(訪日外国人)が日本を訪れていますが、2021年には24万人に減少し、コロナウィルスで大きな打撃を受けました。しかしながら、世界中の人が行きたい国に日本をあげていませう。訪日外国人数を分析すると、韓国は9.2人に一人、台湾は4.8人に一人、香港は3人に一人が訪日経験があります。このリピーターである観光客をターゲットに滞在型、回遊型の観光に取りこんでいきます。

#### ●弊社の取り組み

越中八尾ベイスOYATSUは基本的に食事を提供しません。食事は地域でしてもらい町にお金を落とす平面ホテルです。八尾は普段仕事をしながらどこから三味線の音色が流れ日頃からおわらと寄り添ったありのままの姿があります。それが観光の光です。この日常の中にある異日常こそ旅の楽しみです。ヨソモノの視点は重要です。

着物のアップサイクルブランドタダス 日本国内で年間50万トンの着物が捨てられ、7億着の着物がタンクに眠っています。着物を自分で着る人もいなくなってきました。アップサイクルと言うのはリサイクルで付加価値をつけ、生まれ変わらせることです。今着ているのはおばあちゃんの着物一枚から私のトップスとスカート、娘二人のスカート、主人のネクタイが取れます。着物の

買取はしていないので持ってきていただく嬉しです。アロハシャツは日本からハワイに移り住んだ日系人が着物から作ったものです。シルクは軽く夏は涼しく、冬はあったかいです。「鶴瓶の家族に乾杯」で取り上げてもらえて全国のお客様が増えました。週1回のペースで着物が送られてきて1000着を超えた着物を保管しています。雇用を促進するため、八尾や高岡の自立支援施設で着物をほどこしてもらっていますし、半分以上は八尾町の人に縫い子さんとして活躍してもらっています。

#### ●地域資源を生かすコツ

IはISSUE(課題)、RはRE SOURCE(地域資源)、NはNEED、この三つをミックスし、持続可能なビジネスモデルを展開していきます。ニーズが一番難しいです。コロナになって成人式や結婚式の前撮りが出来なくなったので平日OYATSUで写真撮影をしています。

求められているものを分析することから大切である。高岡の能作さんは鋳物からインテリアアクセサリーを作り世界的になっておられます。井波彫刻もそうです。若い人は神棚を買いませんから雲棚を作りニーズにこたえる。

①データを活用し分析するとおもしろい。  
②当たり前の日常の中に地域の宝があり、ヨソモノの力で発掘

する。  
③ニーズをキャッチする。SYMPATHY(共感)し創造することで事業が進展する。これが私からのメッセージです。ご清聴ありがとうございます。

#### 質疑応答

質問…5年前に北日本新聞に書かれていて、活躍に感動しました。私も観光事業に関係しています。観光客が来られるし体験してもらっているが繋がらない。皆さんの声を聞くことが大切だと思います。  
回答…ホテルのような一つの建物で完結するのではなく、町の中にお金が落ちるように八尾町全体がホテルと考える2016年に地域の人に還元できるよう提案しました。

質問…滑川に来て町おこしをして欲しいと思いました。後ろを見たらお子さん二人おられるのに大活躍しておられますが、母親業はどうしておられますか？  
回答…2020年一人一目を出産し、今年2月に二人目を出産しました。主人がやってくれているところが多いです。ただ八尾町に住んでいるので地域ぐるみで地域の方に育ててもらっています。娘は向いの家へすぐ行っている。娘はあばと呼んで、実の祖父よりなっています。2歳の時お墓参りに行ったときちゃんと手を合わせているのです。そんなことは教えていないのよ。それは近くのおばあちゃんの家へ行く靴を脱いで入ったら、町の神様、お仏壇に手を合わせてから遊んでくださる。私が教えられることじゃないことを地域のつながりの強い町だからこそ、母親が不在でも地域の方々に育ててもらっています。ありがとうございます。

## 活動発表

### 「富山県婦人会 研修活動から」

◎地区別研修・県東部地区  
入善町連合婦人会  
理事 杉澤美和子  
朝日町で実施した県東部地区研修について報告

◎地区別研修・県西部地区  
小矢部市連合婦人会  
副会長 中川 陽子  
射水市で実施された県西部地区研修について報告

◎地域間交流事業  
滑川市連合婦人会  
会長 原 洋子  
8月に滑川市で実施した地域間交流事業について報告

### 「第54回富山県北方領土復帰 促進少年少女北海道派遣団 参加体験発表」

黒部市立清明中学校3年 杉本 菜璃  
8月4日(金)〜7日(月)まで派遣団の一員として北海道を訪問し、交流や体験を通して感じたことを発表



中部ブロック大会

令和5年9月6日(水)・7日(木) 岐阜県岐阜市・土岐市

全国地域女性団体連絡協議会中部ブロック会議

テーマ『未来につなぐ』 持続可能な社会の実現に向けて

オープニング

13時「コーラス赤坂」の皆さんによる歌声で開始。岐阜県女性団体協議会、竹中昌子会長を中心に、袖にレースをあしらったお揃いのロングドレス姿の女性の声清らかな「赤坂の詩」が会場に流れました。

この曲は半世紀前には歌われていたこともあるがいつの間にか途絶えてしまった。しかし、15年前、有志により蘇る。清流の国岐阜県は歴史と文化の街、魅力あふれた街として、赤坂の故郷をうたい、川、山など、時の流れは自然を変え街を創造するが、赤坂の清風と赤坂の心は変わらないと綴り、歌い継がれる。素敵な希望に満ちた詩に酔いしれたひとときでした。

日時 令和5年9月6日(水) 岐阜県岐阜市  
基調講演

演題 「フュージョン・エネルギーの実現に向けて」  
講師 自然科学研究機構 核融合科学研究所 研究部 超伝導・低温工学ユニット 教授 柳 長門 氏

●フュージョンとは融合という事、20年くらいで実現していききたい、そして 地球温暖化を防いでいきたい。  
●人口が急激に増加している。人



「核融合戦略」に取り組んでいる。

間は化石燃料を使用しているが、40年で枯渇するといわれている。化石燃料は二酸化炭素を排出している。原子力に使用されているウランは80年で枯渇するといわれている。現在は地球温暖化を止めるために太陽光・風力・地熱発電などに取り組んでいるが、持続可能なエネルギーになるものがない。そこで人類が恒久的にきちんとして管理できるエネルギーを確保することが重要である。日本は2050年までにカーボンニュートラル達成を目標に取り組んでいる。核融合とは第3の道。これは太陽・星に起きていること。太陽で起きている核融合を生かしている。核融合発電は地球にやさしい。人類は核融合で進化する、地球上で実現可能な核融合、核融合炉は高レベル放射能廃棄物を生み出さない。地上において核融合プラズマを閉じ込める二つの方法として①プラズマの磁場閉じ込め(ドーナツ磁場にする)②レーザー核融合)国際熱核融合実験炉に7か国が国際協力に取り組んでいる。またわが国独自のアイデア「ヘリオト方式」大型超伝導・核融合実験装置に25年間取り組んでいる。また日本は今、「核融合戦略」に取り組んでいる。

核融合スタートアップ企業を立ち上げ、フュージョン・エネルギーの実現に向けて、核融合の完成によりエネルギーの輸出国に!!地球全体の共有資産を構築していきたいと述べられた。

中部ブロック会議分科会報告

- ①今もつとも力を入れている活動
・防災訓練
・国際交流
・環境関連事業
・子供の安全を守る研修
・高齢者見守り
・住み続けられるまちづくり
SDGs 講演会



活動していく上での課題

- ②活動していく上での課題
・会員の高齢化
・免許証返納での行動範囲の縮小
・若い人が入らない
・婦人会への関心などに温度差
自治会の女性の会がしぼりが多く婦人会から脱退していく
・後継者不足
(会長や役員になる人材不足)

4委員会報告

広報委員会

◆婦人会だより発行
8月1日第143号発行
総会、サンフォルテフェスティバルその他
2月1日第144号発行
絆活動と交流のつどい
その他

生活委員会

◆サンフォルテフェスティバル ワークショップ実施
6月25日(日)
県民共生センター
307・308

男女共同参画委員会

◆サンフォルテフェスティバル 富山県婦人会ワークショップに参加
6月25日(日)
県民共生センター
307・308

研修会開催

◆研修会開催
11月1日(水)
県民共生センター
304
講演 富山県の男女共同参画
講師 富山県働き方改革・女性活躍推進室

青少年育成委員会

◆サンフォルテフェスティバル 富山県婦人会ワークショップに参加
6月25日(日)
県民共生センター
307・308

研修会開催

◆研修会開催
9月9日(土)
県民共生センター
308
講演 子どもたちを取り巻く ネット関連問題
インターネットとの上手なつきあい方
講師 富山国際大学
現代社会学部経営情報専攻
准教授 豊岡 理人氏

生活委員会

◆活動報告書 3月発行予定
1年間の活動の記録

生活委員会

◆サンフォルテフェスティバル ワークショップ実施
6月25日(日)
県民共生センター
307・308

生活委員会

◆サンフォルテフェスティバル ワークショップ実施
6月25日(日)
県民共生センター
307・308

生活委員会

◆サンフォルテフェスティバル ワークショップ実施
6月25日(日)
県民共生センター
307・308

第71回 全国女性団体連絡協議会 研究会

# 第3回指導者研修

令和5年11月21日(火)〜23日(木)

## 第71回 全国女性団体

## 研究会in神奈川

### フィルドワークー

### 横浜赤レンガ倉庫

はじめに、横浜赤レンガ倉庫を訪ねた。ボランティアガイドの案内に耳を傾けながら、当時、最新技術が導入されたという最新鋭の赤レンガ倉庫を見て回った。

倉庫1号館1908年(明治41年)着工。1913年竣工。当時は荷役用エレベーターや、消火栓を備えた国の模範倉庫であり横浜の物流の中心拠点として活躍。都市発展において重要な役割を果たしていたという。倉庫2号館1899年(明治32年)明治政府により新港埠頭建設で保税倉庫として建設が始まり、輸入手続が済んでいない物資を一時的に預かったという。

これらは、関東大震災や第二次世界大戦などの困難も乗り越え、どの時代もシンボルとして刻まれてきたのであろう。しかし、貨物のコンテナ化、高機能で大型の埠頭の整備が進む中、赤レンガ倉庫の貨物取扱量は減少し、1989年(平成元年)ついに倉庫としての用途を廃止することとなった。

解体も想定された中、横浜市都市計画再生計画として赤レンガ倉庫の保存が検討され、今も

なお、港のシンボルであるこの建造物が市民の財産として継承され私たちが教え導いている。

### 記念講演

### ダウン症の娘と共に生きて

講師 金澤 泰子氏  
揮毫 金澤 翔子氏

まず、翔子氏登場。静かに一礼、両手を合わせて瞑想する。泰子氏が墨をささげる。大筆を握って立膝で書き始める翔子氏の墨を吸い取り補佐する泰子氏。少しずつ少しずつ書き進めていき、移動しながら立ち上がって長い大筆で鮮やかに書き上げていく翔子氏。角印と朱肉を掲げる親子。押印して完成された揮毫は、4人の方が掲げて披露されました。「飛翔」と揮毫された作品は、力強く生命力が満ち溢れていて素晴らしいパフォーマンスを堪能しました。

泰子氏は、翔子氏を補佐しながら思いがあふれて所々まで話をされまが、国連でスピーチをしたとき、「30歳で一人暮らしをします」と宣



言したことや、ダウン症で一人暮らしは初めてのことで、翔子を信じて決断したものの不安で一杯だったとのこと。引越しの日の朝、「行ってらっしゃい」と言う、「行ってらっしゃいじゃないでしょ。さようならでしょ」と翔子さんに言われたこと。それから8年が経過今38歳です。お金を握りしめて商店に行き、みんなに助けられて生活をしています。商店街の皆様が、翔子はこうして欲しいのだとわかってくださっているのです。皆さんに育ててもらっています。



また、相思相愛の彼もマイケル・ジャクソンが大好きで踊りも大好きだと話されると、翔子氏が帽子をかぶって登場し、マイケルの踊りを披露してかっこよく帽子を投げる姿に、会場は大盛り上がりでした。

泰子氏は42歳で翔子氏を出産。ダウン症とわかって泣いてばかりいた。翔子を隠して生活していた。保育園は、楽しいと言って通ったのでよかった。公立小学校の若い先生に、「翔子ちゃんがいることで教室中がやさしくなる」と言われたことがとても嬉しかった。「神は、不要なものを作らない」という言葉で開眼した。しかし、4年生になるときに、この学校ではだめと言われ、また、家族で引きこもりのようになった。

どうしたらいいの? 思い悩んだ末に翔子を書道教室に入れた。5歳から書を始めていたが、翔子に対して厳しい言葉で指導

し、「般若心経」を、50000字楷書で書かせた。毎日、毎日、親子で泣きながら書く生活をしてきた。翔子は泣いていても、書き上げたらず、一ありがとう」と言いつつ、私を氣遣った。私の苦しみ、悲しみであるダウン症などの、翔子自身はちつとも知らないのです。「ダウン症ってなあに」と聞くと、「書道がうまい人かなあ」と明るく言うのです。学校も楽しく行く。私だけが希望をなくし悲しかったのだとわかったのです。

夫は、私と翔子の目の前で、心臓発作で倒れて亡くなりました。その後、私を助けてくれた妹も亡くなり、闇に落ち込む私でしたが、それでも、苦しい時がチャンスだと思つたのです。

それは、夫が生前に「翔子に書を書かせてみんなに見てもらおう。20歳になったら展覧会を開こう」と言っていたことを実現しようと考えたのです。大きな字を18歳から教えて、20歳でついに銀座で個展を開いたのです。多くの方が、「涙が出た」と言ってくださり、それから500回もしています。

以前、死のうと思つていた青年から、「翔子の書を見て思いとどまった」という手紙をもらったことがありました。涙が流れる翔子の文字。翔子の書には、何かあるのかもしれないとあらためて思いました。「1+1」もわからないのに、感受性が強く、純度の高い魂を持つているのだと感じます。

会の中に障害者もしつかりと根付いています。

翔子は奇跡のような、必然のような書を書く時があります。京都の建仁寺に、国宝の「風神雷神図屏風」(俵屋宗達作)があります。その絵と同じ構図で翔子が書を書き上げました。1回だけ同時に並べて展示することになったのに、国宝と一緒に今も、15年以上並べて飾つてあります。翔子は、12000年前の書と同じ感覚・摂理をもって書いているのじゃないだろうか。本物を見たこともないのに、翔子は立派に書き上げましたのでした。

国連では、着物姿でスピーチ。拙い物言いですが、「私は書家です」と堂々と話しました。泰子氏は、「今まで嘆いて泣いてばかりいた私は、今では、生きていけば絶望はない」と信じます」と結ばれました。

講演が終了し、舞台から降りた翔子さんは、参加者の間をひたすら走りロービーへ一目散に向かいました。母と協力しながら笑顔も見せて、素晴らしいサインを次々と書き上げていきました。

揮毫した「飛翔」も展示されており、これからの泰子氏と翔子氏のさらなる活躍を願います。深い感性と温かい心を感じた研修となりました。



令和5年度

7市町活動報告

家庭教育研究集会  
「パパ、ママと一緒  
楽しいな！集まれ！  
わくわくドームへ」

入善町連合婦人会

12月9日(土)入善町わくわくドームを会場に地域の子育て支援の一端として、親子のふれあい、三世交代交流「パパ、ママと一緒に楽しいな！」の会を開催した。

会場はわくわくドームは、子育て中の親たちの長年の願い「雨天の日でも自由に遊べる所を」に町が応えて建設し昨年オープンした施設。見るからに興味をそそるカラフルな立体遊具の数々、緑色の絨毯(人工芝)の広いホールなど、魅力いっぱいの素晴らしい施設になっている。

参加者は、親子、婦人会員で計52名。多様な運動や紙芝居をおして楽しみふれあいを深めた。

第一部  
親子で体を動かして遊ぼう  
講師は健康運動実践指導者吉田真由美氏。

さわやかな大きな声、軽快なリズムに合わせてストレッチ、親子対面キャッチボール。班に分かれ、親子がボールを受け渡ししながら走るリレーなど、普段とは違う運動で親子がふれあひ、どの親子も楽しそう。笑い声がホールいっぱい広がっていた。私たちシニアもつい



元気モードで参加。平素と違った運動で心地良い疲れに大いに満足した。

第二部  
紙しばいで楽しもう

講師は島加代子氏と杉澤美和子氏。自作のタヌキの面を着けて、お腹を膨らませ「ぼんぼこタヌキ」に変身した講師の大型紙芝居の始まり。「ぼんぼこタヌキ」「おべんとうばこ」「てぶくろ」と続くさわやかなで感情豊かな講師の語りと大きな絵に子供たちは引き込まれるように見入っていた。真剣なまなざしが印象的だった。

地域の子供達と一緒に楽しめ、有意義で充実した一時であった。



令和5年

「コロナ5類へ移行」  
魚津女性ネットワーク

令和5年度のスタート、地域の総会・県婦人会総会(今年も、コロナ禍のスタート)と。ところが、5月「コロナを5類へ移行」の発表:「どう変化するのだろうか?」「これまで休んでいた大きな事業の復活」「正直3年から4年の活動の休止を復活するのは大丈夫か?」から始まった。行事は楽しい、仲間の顔を見ながら活動するのは楽しい、しかし疲れが半端ない。コロナ禍の行事は縮小・ソーシャルディスタンスをとってと大部



省略してきた。そんな中で着々と事業は進んで年度の終盤へ。12月、忙しかった今年一年を振り返って「寄せ植え」を行う事にした。材料は、葉ボタン・アリッサム・シクラメン・ビオラ・マーガレット・虹色すみれ等など。最初に土をいれ、底に来年の春に咲くチューリップの球根を並べ、土をいれ形を整えながら「マイガーデン完成」充実したこの一年をぎゅっと植え込みました。

滑川市児童館まつり  
本格開催

10月14日(土)、4年ぶりに児童館まつりが復活しました。婦人会は久しぶりの参加です。「どんどん焼き」が以前のよう



上手に焼けるのかと不安なので皆で確認をして臨みました。早めに準備を始めて試作を開始。お玉で生地を入れる時の量や、何個を一度に焼くのか?干しエビやとろろ昆布の量や入れ時、ソースのかけ時と量、焼き上がり目の目安など忘れていて失敗作も出ます。それをみんなて試食します。もつと干しエビやとろろ昆布は広げて入れるが量は少なくとか、ソースは全体にかけると多すぎないように気を付けるとか、生地も厚いからいいのではなく絶妙の厚みというものがあります。「ほどほど」といっおいしさを追求しながら焼いていきました。

当日は1300人ほどが来館され、子どものみが行事に参加でき

ます。沢山の出し物やどんどん焼きをはじめ豚汁、綿菓子、ポップコーンなどの食べ物も提供されます。1日いても飽きないほどで、外の広場や出入り自由な解放された空間が、人であふれ、笑顔はじける子ども達が、ゲームをしたり創作活動などに参加しながら遊びまわっています。

最近、両親と子ども、父親と子どもの参加が増えていきます。今まで以上に若い父親の育メンぶりと存在感が頼もしく感じられた児童館まつりでした。

また、沢山のボランティアが協力されています。私達「どんどん焼き」のメンバーも北加積小学校6年生2名、西部小学校5年生3名のボランティアと一緒に大活躍しました。焼くのが好きだからと言って他のブースの見学参加を早々に切り上げてひたすら焼き続けています。教えたことを素直に聞き実行します。焼くのは簡単なのですが、最初は失敗は当たり前ですが、おしいけと姿が悪い、ソースがはみ出る、小さすぎる、大きすぎる、厚すぎるなど、試食でおなかがいっぱいになった頃に上手になります。私たち以上に見事な活躍ぶりです。5人とともに「どんどん焼き」を焼き尽くした私たちは、達成感で大満足でした。子ども達の楽しそうな顔を見ることが今年ほど感謝したことはありません。

世界の争いのさなかにいる子ども達の無事や安全を願うばかりです。「平和こそ地球の願い。人類の真の幸せなので



女性リーダー研修の活動から

地域女性ネット高岡

地域女性ネット高岡では、地域社会の中で、いきいきと輝き、様々な学習活動に取り組むことを目指し、女性リーダー研修を開催しています。

高岡で初めての女性市議会議長になられた中川議長に「女性がもつと輝く時代へ」仕事と家庭と夢と」と題して講演をいただき、議員として輝き、全力で歩まれた議員としての活動を聞くことが出来ました。



繰り返して起こる自然災害については日ごろの備えの大切さを学び、万一に活かし、命を守るための防災学習会を実施し、安心・安全な地域づくりを目指してまいります。今年度は高岡市危機管理室に女性職員が配属されたことから、女性の視点から「高岡市の災害リスクと防災」について講演いただきました。LPガスが災害に最も強い燃料であること、災害時に最も必要である簡易トイレの作り方、非常持ち出し品などについても再確認する機会となりました。地域の災害としては、7月に線状降水帯が発生し、高岡では洪水に見舞われた地域が多かった災害が生じ、今まで経験しなかった災害が身近に起こりました。また令和



6年1月1日には、今まで経験したことがない大規模な能登半島地震が発生し、避難所に多くの人が集まり、不安な夜を過ごしました。生活のライフラインである断水も発生し不自由な生活を余儀なくされる地域もあり、このような災害について、問題を掘り起こし、地域の各種団体と連携して命を守る行動に結び付けていきたいと思えます。これからも継続事業として防災学習に取り組んでいきたいと思えます。

**地域に密着して!!**

**家庭向け防災学習会を開催**

毎年女性向け学習会を行い始めて5回目となります。各地区毎にそれぞれ特徴のある学習会を行なっていますが、今回は油田地区において実施した家庭向け防災学習会について紹介します。

まず、地域の中でも横の繋がりを強くするため地区、女性の組織団体に声掛けをし、役割分担し、作業をお願いしました。

**振興会女性**

統括(絆の会員)

女性防災士  
防災食(アルファア米的炊き方)、簡易トイレの作り方  
食生活改善推進員

防災食(簡単なレシピの作り方、水を使わない工夫)

健康づくり推進員  
受付、健康チェック、相談

赤十字奉仕団  
炊き出し訓練

**自主防災会**

地区振興会の防災設備、防災備品の説明

**市防災危機管理班**

マイタイムライン、垂直移動の仕方、家庭家具の配置等

**岩谷産業(株)**

ガスボンベやガスコンロの正しい使い方、賞味期限等  
以上、2時間コースでしっかりと学び、参加者からは、地域の顔がわかりやすく参加してよかったですとの声が多く、防災食も美味しいのに驚いたとアンケートに答えていただきました。

このように、地域ごとの小さな単位でのきめ細やかな防災学習会も大切だと思えました。



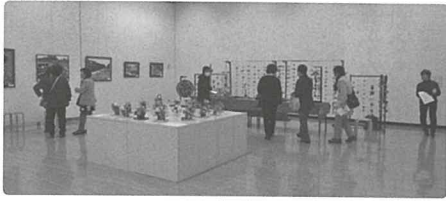
**改善しながら**

**歩み続ける婦人会**

**小矢部市連合婦人会**

今年度、小矢部市連合婦人会は、創立60周年の記念の年を迎えました。60周年記念事業の主な行事として例年より工夫をこらし、4月には「創立60周年記念式典」、7月には「環境セミナー」、10月には「家庭教育研究会」を行いました。

さらに11月18・19日には、アートハウスおやべで「第8回婦人会祭り」を開催しました。  
昭和38年に結成した小矢部市連合婦人会の「10年の歩み」や「今年度の活動紹介」



介」を掲示し、来場者の方に歴史の一端を見ていただきました。

当会には、現在、メルヘン☆スマイル・切り絵・小物づくり・手編み・山野草・パステル画・チャレンジフラワー・洋裁・スマホ写真の10のクラブとボランティアサークルがあり、市内全地区の会員が活発に活動しています。クラブ・サークルの一年間の活動紹介や、会員の皆さんが一年間丹精込めて作った作品の数々を展示しました。

また、作品展示のほか、クラブ・バンドクラブの「クリスマスリース作り、アクセサリー作り」、洋裁クラブの「シャツの形のブローチ作り」、小物づくりクラブの「一輪挿しの椿の花作り」、会員による「空き瓶リメイク」「木で作って遊ぶう」などの体験教室を企画しました。二日間にわたって多くの方がこれらの製作活動を楽しまれました。



体験教室の製作活動を通して、会員と来場者、会員相互の心の交流が図られ、楽しい時間を共有することができました。「来年度からクラブに入りたい」と入会の申し込みをしていられる4名の方もおられました。  
市内外の多数の来場者の方にクラブ・サークル活動の様子を見ていただき、体験もしていただいたことは、当会員のこの上ない喜びになりました。  
このように、多くの行事を行い、参加された方から「楽しかった」「ためになった」「有意義だった」「また来年も楽しみにしていますね」などという多くの声をいただいた

一年でした。来年度以降も、役員一同意見を出し合い、改善しながら歩み続ける婦人会でありたいという思いを強くもちました。

**四年ぶりに活動を再開させ**

**女性の活躍を前進させる**

**あじさいの会**

令和5年6月18日(日)、県婦人会地区別研修(西部地区)を実施。竹内源造記念館や十社大神の見学、創作折り紙の体験等を行いました。企画・運営と初めの試みでしたが、29名の参加を得て



皆さんからも温かい言葉をいただき、喜んでいただいたことに、感謝しております。  
その他、会として様々な活動を実施しました。

- 日帰り研修会(高岡市) 令和5年10月15日(日) 勝興寺・気多大社・瑞龍寺 講演会
- 令和5年11月11日(土) 演題「女性の活躍を支える女性の健康について」 講師 産婦人科医 富山県議会議員 種部 恭子氏

これらに加え、年16回の資源回収実施、振興会との共催事業として防災訓練(炊き出し)や敬老会等に協力しています。

**歯舞昆布料理教室**

日時 令和5年12月1日(金)13時  
場所 県民共生センター・調理実習室

献立 必ずご飯、とろろ昆布のおすまし、昆布巻き2種(サケ、シシャモ)、結び昆布の煮物、切昆布の煮物、切昆布とかぶの即席漬け、切昆布とキャベツのサラダ、昆布メ(こんにゃく、きゅうり、パプリカ)

「食卓から北方領土を思う」を目標に毎年開催している歯舞昆布料理教室。北海道に次いで北方領土からの引揚者が多い富山県。多くの方が漁場開拓や昆布漁に従事されたことを思いつつ、調理実習を行いました。ご飯は、昆布を出しに使用し、柚子の皮果汁を入れて炊きました。柚の香りにほっこり。初め



の試みでしたがとてもおいしく好評でした。切昆布を入れてもよかったです。昆布巻きは、ししゃもを巻いてみました。これも初めての試みでしたが、おいしくいただきました。切昆布と人参、大豆、油揚げなどの煮物は、ごま油の香りがさわやか。煮物に「工夫するだけで、違った味わいを楽しめること」がうれしい発見。切昆布と茹でキャベツのサラダもごま油とポン酢でさっぱりとした仕上がりに。昨年度好評だったこんにゃくの昆布メを今年も実施。「イカならいいな」という声もありましたが「いろいろな事情でこんにゃくに。加えてきゅうりとパプリカの昆布メも作ってみました。色がきれいでもた味違った味が楽しめ、好評でした。

# 令和5年度 地域間交流事業 IN 滑川

期日 令和5年8月20日(日)・21日(月)

内容 8月20日(日)

市内研修 滑川市立博物館 中滑川複合施設メリカ  
宿場回廊めぐり(徳城寺 養照寺 旧宮崎酒造)

情報交換会 8月21日(月)

「標準化セミナー」  
開講式 標準化セミナー(滑川市民交流プラザ)  
ほたるいかミュージアム 富山湾岸クルージング  
◎国際ルール形成・市場創造型標準化推進事業

- 講師 渡辺 義治 氏  
一般財団法人日本規格協会 阿部 裕治 氏  
一般財団法人日本規格協会 阿部 裕治 氏
- 演題  
1 私たちの暮らしを支える標準化  
2 新しい衣類の取扱い表示  
3 案内用図記号  
4 チェスト転倒防止

富山県婦人会地域間交流事業は、平成30年度から実施しています。

各市町から広く参加者を募り、1泊研修を実施することで会員相互の交流を図り、婦人会活動、地域活動について情報交換をすることともに、今後の活動の在り方などについても考える機会をもつ研修と交流を深める事業です。

## 8月20日(日) 市内研修

滑川市立博物館

「シン・なめりかわ昭和今昔写真館」が開催され、昭和の写真と現在の写真を対比して展示してあり、変化などが見比べやすくなっています。近藤浩二館長に丁寧な説明していただき、写真を見る視点が明確になり、とても分かりやすかったです。昔々の写真がたくさん展示されていて、街や村の風景や建物、日々の暮らしの様子や祭りや行事などにおける人々の表情や衣裳な



どから子供の頃の懐かしい記憶をたどる思い出の写真展でした。

## 中滑川複合施設メリカ

今年4月にオープンした災害時避難施設でもあります。運よく午前中に防災訓練が行われていたこともあり、たくさんの防災グッズが展示されていました。2階には、災害用の備蓄品が多数保管されている大きな倉庫があり、テントの中にトイレも展示されていて、備蓄品の説明なども参考になりました。調理スタジオは、炊き出しスペース、300名収容のホールは避難スペースになります。



## 宿場回廊めぐり

そこへ水野達夫市長が来てくださり、一同びつくり。滑川市のアピールやメリカについてお話をいただきました。

財などを興味深く見学させていただけました。

養照寺には、加賀前田家の参勤交代の休憩や宿泊に使用された本陣が、江戸時代のままに残されており一段高く作られているなど、ボランティアガイドの説明に聞き入りました。装飾豊かな内部空間を持つ本堂は、国登録有形文化財に指定されている豪華なものでした。

旧宮崎酒造では、瀬羽祭が開催中でした。いつも何かしら行事が行われ、映画のロケ地にもなっています。付近の建物やお店をのぞきながら細い旧街道を散策しました。滑川には、国登録有形文化財に指定された建物がたくさんあり、地元の私たちも意外と知らないことを実感した時間でした。

## 8月21日(月)

ほたるいかミュージアム見学  
富山湾岸クルージング

午後は、ほたるいかミュージアムを見学のうち、クルージングを楽しみました。多くの人が、キラリン船の船首や船尾に行き、水しぶきをかぶり濡れながらも楽しんでいました。



く、富山湾の美しさ、大きさを感じていました。船長さんの解説も楽しく、世界が認めた美しい富山湾を堪能しました。最高の時間でした。

## 標準化セミナー

「私たちの暮らしを支える標準化」と言われても、あまりなじみのない概念です。分厚い資料とパンフレットに思わず身構えてしまいました。

にこやかに登壇された阿部講師は、実にわかりやすく身の回りの標準化を教えてくださいました。鉛筆や消しゴム等の文房具、トイレットパー、キーボードの配列、乾電池、水道の蛇口など、実にたくさん、標準化されたものがあります。



つまり、標準化とは、自由に放置すれば、多様化・複雑化・無秩序化する事柄を、小数量・単純化・秩序化する事で、規格を制定し全国的に統一することです。JIS・JASマーク・案内用図記号(ピクトグラム)・衣類の取り扱い表示・洗濯記号・国際規格ISOなど国際間で統一し通じるものもあります。

続いて渡辺講師が登壇。ピクトラムの国際規格との整合化の大江正が、日本開催のオリンピック(2021)に合わせて行われ、そうです。「あ、これ、見たことがある」資料の種目別の図記号を見て、納得。目で見るだけで案内や理解を可能にする優れたものです。また、子どもの事故を低減するために警告表示などの義務化、チェストの安全性確保試験などもあると学びました。

今回は、身近な標準化を学習しました。「ごみの分別もだね」という声があがったり、洋服のタグを見て確認したり、大変興味深い研修となりました。

今回の研修では、参加者の皆さんが、会場設営や片付けなどに積極的に協力してくださったことで、少ない役員でもスムーズに研修を進めることができました。

滑川市に興味をもって楽しんでいただけたことにも、私たち地元の方にとっても嬉しいことなのだと思われました。ボランティアの方々の楽しい解説と深い知識が、人々を呼び込む力になるのだと確信しました。厳しい暑さの中、無事に研修を終えることができたことを感謝しています。

## とやま環境フェア

2023

**日時** 令和5年  
10月14日(土)10時~17時  
10月15日(日)10時~16時

**場所** 富山県産業創造センター  
(高岡テクノドーム)

会場は、61ブースが所狭しと構え、各々の環境活動や省エネ機器の紹介コーナー、エコ体験コーナー等が設けられました。富山県婦人会は、「ペットボトルを再利用した容器に草花を植え緑豊かな暮らしを楽しもう」をテーマに体験コーナーを設けました。

壁面には、これまでの環境に関する活動を紹介する資料を展示。床面には机を置き、ペットボトルを花器に仕立て観葉植物を植えるコーナーと、ペットボトルの蓋と古新聞を使ってコマを作るコーナーを設けました。

準備したペットボトルは2日間150ヶ。観葉植物は庭にある植物を持ち寄り、購入したりしました。あるお母さんは、「この植物は何?緑がある」といふ。玄関に置こう」と2、3種の植物を選び、満面の笑みで持ち帰り、子供は、「コマ作りしたい。模様はどうしようかな?色は?」「羽根を作るとよく回るよ」と会話もはずみ、幸せそうでした。たくさんの子のの様子にうれしく感じ、持ち帰って青花とした緑に育つかな?と心配しながらも、環境活動の一端を担うことになったと思つと誇らしげにも思いました。

環境フェアに参加し、水と緑に恵まれた富山を守るためにも、これからの未来の子供たちのためにも環境問題を考え、今私たちが行動し続けることの大切さを痛感しました。

## 指導者研修

「名画」学び

令和5年7月22日(土)

松桜閣・関西電力黒部川電気記念館見学  
映画「とんび」鑑賞

### ◆研修に参加して

日頃より数々の企画で学ばせていただき感謝いたします。今回は、中田地区(高岡市)から11名が参加しました。今後の参考に、参加者の感想をまとめてみました。

◆昼食が、レストランでの昼食からコスモホールでお弁当をいただく形に変更になったが、入善町の担当の皆様のご配慮で戸惑うことなく昼食をいただくことができました。

◆急遽の変更のためとは思いますが、同地域の方々が同じ席に着くことができなかったのが少し残念でした。半面、「他地区の皆様とお話できたことを喜ばしく思います」という声もあり、一応に楽しい経験だったようです。

◆「さすが婦人会」と感心したことは、食べ終わった後のゴミの分別が手際よく、整然と行われたという点です。「とてもよかったです」という意見が多くありました。

◆呉西地区からの参加で、黒部ダムや宇奈月温泉ぐらいいしかなじみがなかった中で、電気記念館や松桜閣の散策がとてもよかったです。

◆松桜閣では解説をしてもらい、過去に訪れたことがある人たちからも、より楽しめてよかったとの声があがっていました。

◆電気記念館もリニューアルされた間も十分な施設で、大人も十分楽しむことができました。

◆映画「とんび」も泣ける作品で、家族の絆を考えさせられました。まさに婦人会の趣旨に合致した

企画で十分に楽しんだ1日となりました。

### ◆黒部・入善町研修を終えて

これまで、すでにテレビドラマ化されている「とんび」を、今なぜあえて映画化したのか不思議に思っていました。その理由は、本作に「今伝えるべきテーマ」があったからだという触れ込みを知り、この研修を楽しみにしておりました。また、県東部にはなかなか出掛ける機会もなく、今回の黒部川電気記念館、松桜閣等はどこどころだろうとワクワクしていました。

最初に訪れたのは、北陸の銀閣寺と称される「松桜閣」、初代富山県知事国重正文氏の私邸を移築し職藝学院の上野幸夫教授の指導のもと学生さんたちによって復元されたそうです。京風の数寄屋造りで天井が低いので背の高い人は腰をかかめないで鴨居に頭をおつて座っていました。しかし、畳に座つて開け放された障子戸の向こうの庭を眺めると、余計な物を削ぎ落した簡素なつくりで、言葉に表せない美意識を感じることが出来ました。そして、なんとこれが出来事な広い庭とのコラレーションです。

「松桜閣」という名前も最初に植えられていた松と桜にちなんで付けられたとのこと。アカマツを中心とした樹木が沢山あり、琵琶湖を模した池の周りに色々な形の石が配された回遊式庭園ですが、茶室のある島から、この近江八景を模した庭の眺めは、「松桜閣」の2階からの眺めと同様に、日々生活に追われる私にとって、遠い明治時代に思いを馳せ、心が癒される幸せなひとときでした。

「えー美術館?」と誰もが驚いた入善町民会館(コスモホール)。外観は海外の建築様式に似せた感じがしたのと、中庭には数々の彫刻作品が並んでいたことから、重松清による不朽の名作小説「とんび」が初映画化となり、このコ

スモホールで上映されたのです。昭和30年代、高度経済成長期の活気に満ちた時代に、妻を事故で亡くし男手一つで息子を育てて不器用ながらも懸命に生きた父親と周囲の人々の姿を、母の事故死をトラウマに持つ息子の眼を通して描かれた感動作品でした。幾度途切れても必ず繋がるという親子の絆は、いつの時代でも不滅であり、息子の成長を物心両面で支える地域の人々の姿に、人の繋がりの尊さや大切さを感じ取る事が出来るものがあり、涙腺崩壊しまくりました。

そうだったのか、この映画化のテーマは、もしかすると、「コロナ禍の中で人と人の間に物理的、精神的な距離が生じがちな今の時代だからこそ、悶々と生きている私達に諦めてはいけない、覚悟を持ち、人と人とが相手を思いやり、助け合う温かな絆を未来へ繋いで行くのが大切である」というのではないかしらと、勝手に領く自分がありました。

今回の研修で、とても素晴らしい気づきがありました。ありがとございました。

**今後の予定**  
第28回 結核予防関係婦人団体中央講習会  
令和6年2月7日(水)・8日(木) KKRホテル東京  
第75回結核予防全国大会  
令和6年3月14日(木)・15日(金) リーガロイヤルホテル東京  
活動報告書作成 令和6年3月

